



43号

発行/小林市立病院  
地域医療連携室



表紙挨拶  
病院長  
徳田 浩喜



令和2年度の初めを迎えるにあたりご挨拶いたします。

平素より地域医療に対する皆様方のご理解とご協力に感謝いたします。

当院では昨年より分娩を含めた産科医療および常勤医着任による小児科医療が再開されました。患者さんの状態によっては当院での対応は困難な場合もあり、高リスク症例に対しては高次専門病院との連携が必要であり、皆様方のご理解をいただきながら産科、小児科医療を継続していきたくと考えます。

公立・公的病院の再編統合が問われている現在、当院としては急性期医療の維持、充実が必須と考え、救急、外科系疾患に対する手術、内科系疾患への急性期治療が重要と考えます。しかし、内科疾患への対応は、依然として厳しい状況で、周囲の皆様方にご迷惑おかけしています。医師確保を含め引き続き努力いたします。現在、研修医の派遣そしてクリニカルクラークシップでの医学生の実習が継続され、当医療圏の現状を若い世代が経験する機会が増えてきています。我々指導する医師を含めたすべての医療従事者の資質も問われる中、彼らが地域医療を理解できる指導に心がける必要があります。同時に我々もそれぞれの職務での努力が必要と考えます。そして地域医療と一緒に実践してくれる医師が増えることを期待します。

回復期医療、そして在宅医療においては、地域包括医療の実践という重要課題であり周囲の医療機関、介護施設と円滑な連携がとれるように、皆様から信頼していただける医療を提供することが重要と考えます。

これからも地域住民の皆様へ安全で的確な医療を提供し、地域医療の充実に努力いたします。本年度も引き続きご協力、ご指導よろしくお願い申し上げます。

## 病院理念

### 安心、安全で信頼される病院を目指します

#### 【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ 患者様の権利を尊重します



# 栄養情報たより

《臨床栄養室》

みなさんは野菜をしっかり食べていますか？野菜の摂取不足が全国的に問題となっているそうです。今回は、野菜をどれだけ食べなければならないのか、どのように工夫したらよいか考えていきましょう！

## あなたの野菜不足診断

- 毎日の食事を残すことがある  最近生活が忙しい  3食食べていない  
 毎食野菜は食べない  外食が多い

1つでも当てはまるものがあると、野菜不足の可能性は高いです。

厚生労働省 健康日本21より・・・

野菜は1日350g以上の摂取が推奨されています。

どのように350gを計算したらいいのでしょうか？

野菜料理やサラダなど**70gの量を1つ**とカウントします。

**合計5つ(350g)**と考えていきましょう！

カウント1つになるもの・・・

- ほうれん草のおひたし（小鉢1皿）
- 野菜サラダ（サラダディッシュ1皿）
- 貝たくさんのみそ汁（汁椀1杯）

カウント2つになるもの・・・

- 野菜炒め（中皿1皿）
- 野菜たっぷりカレー（1皿）
- 中華丼（丼1杯）

宮崎県民の野菜不足量は・・・

約100g

今後の食生活でどのように工夫していこう？

- ・何か1品は野菜料理や野菜サラダにしましょう。
- ・外食先では、枝豆や野菜サラダなども注文しましょう。
- ・定食を注文する時は小鉢が付いているものを選びましょう。

# 看護部紹介

今回は4階西回復期リハビリテーション病棟をご紹介します。  
当病棟は平成25年6月に開設して、今年で7年目になります。急性期治療後の患者さんが、リハビリを目的として入棟されます。自宅へ帰るための生活動作の確立や自宅での生活が難しくなった患者さんの退院支援を行っています。スタッフは医師・看護師・リハビリスタッフ・管理栄養師・MSW・看護補助者で患者サポートを行っています。入院中は、生活の基本となる「食事・排泄・清潔動作・移動・内服管理・生活リズム」の調整しています。特に高齢になると入眠中の誤嚥リスクが高くなります。その為、食事前の誤嚥予防体操や、歌本を作成して口腔体操を行い予防に努めています。



入院期間が一般病棟と比べ長くなるため、患者さんとの距離が縮まり患者背景を聞くことが多くなります。今までの生活習慣や、趣味などいろいろなお話を聞き人生の勉強になる事も多いです。また、入院中は七夕やクリスマスのイベントを感じてもらっています。体力の回復を得て自宅や施設へ退院するときは涙ぐまれながらお別れすることもあります。核家族が多い中で、高齢者との触れ合いを通じて老年看護や認知症看護は今後も求められる分野だと思います。今後も安心して信頼できる病院を目指して看護提供できるように努めます。

4階西病棟

大神 洋子主任看護師

# コ・メディカル紹介

地域医療連携室の紹介をします。

当院の地域医療連携室のスタッフ構成は、メディカルソーシャルワーカー2名、退院調整看護師2名、医師事務作業補助者6名、事務1名の計11名で日々業務を行っております。

各担当職の役割としては以下のとおりです。

## 【MSW（メディカルソーシャルワーカー）、退院調整看護師】

患者さんやご家族の方の心配なこと、不安なこと等の相談対応を行っています。また、入院中の患者さんが退院後も安心した生活を送ることができるように、院内多職種、各関係機関等と連携を図りながら、退院調整を行っています。

## 【医師事務作業補助者】

診断書の作成など医師が行う事務作業を補助・代行します。

医師の指示により、電子カルテの入力代行、診察・検査の予約、紹介状の作成補助等を行います。

## 【事務】

患者さんや各施設、他医療機関からの電話対応（予約や相談）を主に行っています。また、地域医療連携室だより『こすもスマイル』の発行、症例検討会の開催なども担当しております。

これからも地域の皆さん、各医療機関や関係機関等との円滑な連携に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

瀧口 麻希



## スタッフの一言

新型コロナウイルス流行に世界中が翻弄されている状態に、不安の多い生活を余儀なくされている方々も多いことと思います。桜が咲き花見のシーズンですが、例年通りの賑わいはないかもしれませんね。通勤途中に桜の木々があり、朝に夕に綺麗な姿に癒されています。ストレス解消方法はそれぞれ。普段とは違う楽しみの時間が作れたらいいですね。

岩田 マリ子主任看護師